

# ■ 2024年度 入試問題分析シート ■

大阪大学

前期日程

科目

数学(文系)

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

## 〈総論〉

昨年度に比べて難化した。純粹な計算量としては減少しているが、全体的な分量としては昨年度並みである。最近では求値問題がほとんどだったのに対して、今年度は3問のうち実質2問が証明問題という文系にしてはかなり厳しい問題構成になっていた。

## 〈特記事項・トピックス〉

②は理系との共通問題である(少し設定を簡単にはしている)。積分法により面積を求めるという頻出問題も出題された。

## 〈合格への学習対策〉

2020年以降、波はあるものの易しく典型的な問題が多く出題されてきているので、まずは基本的な解法を習得することが重要であることは変わらない。しかし、ただ答えさえ求めればよいという学習態度ではなく、常日頃から論理的に物事を考えたり証明問題に取り組んだりすることも必要になってくるであろう。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
①	記述	II	積分法	絶対値記号を含む式で表された曲線と直線で囲まれた部分の面積についての問題。 いわゆる 1/6 公式を利用できるように工夫することがポイントである。	標準
②	記述	B	空間ベクトル	ねじれの位置にある2直線の両方に直交する直線がただ1つだけ存在することを示す問題。 抽象的な問題であり、ヒントが与えられているわけでもないので自らベクトルを設定する必要がある。 最近はあまり出題されなかった形式の問題であり、全く手をつけられなかった受験生も少なくないのではないかと。	やや難
③	記述	A B	整数 数列	素数に関する問題。 具体的な値は小さい順に素数を書き並べるだけであるが、一般的な証明となると工夫が必要である。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。